

第2回分科会活動報告

日 時：2011年6月30日（木）

場 所：富士通 netCommunity

出席者：27名（内訳：正会員12名、賛助会員他：15名）

記録者：日本大学理工学部 惠藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：自己分析

1. 配布資料

- (1) 2011年度第2回第一分科会プログラム
- (2) 2011年度第2回第一分科会出欠名簿
- (3) 第3回情報戦略フォーラム（ご案内）
- (4) 講演資料「ベストティーチャ授業収録DVDを授業改善に生かす」
- (5) パンフレット「シンポジウム 大学の授業を改善する」

※講演「自らを発信するには」の資料は投影のみで配付はありませんでした。

2. 研究活動内容

- (1) 全体会 13:00～13:10

- a. 開会の挨拶
- b. 幹事会からのお知らせ
- c. 事務局より連絡

- (2) ご講演 13:10～14:10

テーマ：「自らを発信するには」

講演者：江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授 小倉氏

ご講演前に、元日本テレビのアナウンサーでスポーツ中継からバラエティ番組の司会などを担当されていたことや、その後BBC英国国営放送アナウンサー、帰国後はラジオやイベントなどの仕事をを経て、2008年より江戸川大学に着任されるといったプロフィールが紹介されました。そしてご講演「自ら発信するには」では、就活などで伝達者・表現者となる学生達に、自己を分析し自ら発信するために大切なスキルを身につけさせる方法についてお話いただきました。



小倉氏は、学生が一方的な受信者を高校生まで続けており「就活に来る学生達は自らを発信し、受信者に繋ぐ力に欠けている」と日本テレビの採用担当をしていた時によく感じられたそうです。そこで「大学の中でどうコミュニケーション能力を身に付ける機会を与えるか」、そして「発信者となるにはどうすれば良いのか」といったことを考えるようになり、それにはまず自己を知ること、自分自身がどんな人間で何をしたいか、どうなりたいか、何を求めているか、を突き詰めることが重要であると思われたそうです。つまり自己分析により、自分が求めている職種が明らかになり、発信者として受信者に繋ぐ力を発揮でき

るのではないかと考えられ、学生達に1週間以内に100個の長所と短所を挙げさせるという課題を出しました。100個もの長所と短所を書かせると両者にオーバーラップする単語が見えてくる(例:優柔不断=じっくり考える)ため、短所をプラス表現に変換することで自らに自信を持たせ、自分の発言にも自信を持たせるという取組みを実施されました。

(3) 意見交換会 14:20~15:20

ファシリテータ: 恵藤

今回、意見交換会を実施する上で、講義のような座席配置では、あまり活発な議論ができないということで、会場の椅子が移動できるタイプであることを利用し、皆が円形になるように座り、全員の顔を見渡せるかたちで意見交換を行いました。これが功を奏し、かなり多くの方が「積極的な発信者」となり活発な議論がなされました。いくつか内容を記述します。小倉氏が講演中に「学生が講義前に「私は誰?」



と訊いてきて、答えられないと「〇〇ですよ、しっかり覚えて下さい!」と言い、また次週の講義前に同じ質問をぶつけてきた。そうするとその学生の名前を自然に覚えてしまった。これは一つの発信になっている」といった話をされました。その話に対して「積極的な発信者」と「強制的な発信者」は違い、時として強い発信は短所として働く場合もあるかも、といった発言がありました。また「今の学生はデジタルネイティブ、情報技術の扱いには長けている。その情報をうまく扱える学生は発信もできている」、「SNSなどバーチャルな世界では発信力を発揮する学生を、リアルな世界へ引っ張る方法を知りたい」といった発言をもとに、大いに議論され活発な発言に会場も盛り上がりました。

(4) ご講演 15:30~16:30

テーマ:「ベストティーチャ授業DVDを改善に生かす」

講演者: 神奈川工科大学 教育開発センター 教授 遠山氏

このご講演では、「学生の目を輝かせる授業なんて可能なのか」という疑問から、その答えを探るため全国を回りベストティーチャの約98科目の授業を遠山氏ご自身が撮影された取組みについてお話いただきました。



10年前から授業を改善しなさいと言われていたが、果たして本当に授業改善は進んでいるのか、そんな疑問から遠山氏は授業アンケートの実施、コメント

集の発刊、授業公開、授業改善ヒント集、DVDによる個人授業の見直しといった活動をされてきました。こういった活動をサイクルで回すことにより3年連続で説明の仕方、刺激、満足度などが上昇する成果をあげられました。そしてそのような取組みを実施している中で「学生が評価し周囲が認めている授業を他の講義担当者が見る機会がない」と感じられたそうです。そこで「良い授業」は日本のどこにあり、皆がいつでも「良い講義」を見て参考にできないか、といったことから「良い授業」のライブラリー化を始められました。

講演中には実際に遠山氏がライブラリー化された DVD の視聴もさせていただきました。また「良い」授業とはといった話や授業改善が一向に進まない理由などについてもお話しいただきました。

(5) 施設見学 16:30～17:00

富士通が考える「ICTによって実現する未来社会」ということで「低炭素で豊かな社会、未来社会に向けた富士通の取り組み」についてのビジョンデモや「リアルタイムハイビジョン映像伝送装置」としてフルハイビジョンの映像転送技術などについてのソリューション紹介をしていただきました。他にもいろいろな最新技術が紹介されておりますので例会以外でも是非、見学されることをお勧めいたします。



3. まとめ

今回も内容の濃い有意義な例会となりました。何といたっても両講演ともに 1 件でも分科会として成立するほどの豪華ラインナップでした。小倉氏は元アナウンサーとしてのバックグラウンドをフルに発揮されていて、聴きとりやすく「発信者として」という事を語られるだけあって見事なプレゼンテーションでした。またご講演の「自らを発信するには」では学生達に「100 個の長所と短所の列挙させた」とのこと、これは学生達にとっても大変な作業だと感じました。列挙された 100 個の長所、短所の内容について、小倉氏はその内容の分析をされないそうです。あくまでも自らを見つめるものとして扱うということでした。就職超氷河期と言われる現在、大学側としても支援に幅広く力を注ぐことが求められるなかで、このように自己分析や発信力の向上に取り組まれた講義（ゼミ）を受けられる学生は幸せだなと感じました。また遠山氏のまとめられた DVD を分科会の中で視聴させていただきました。本当に凄い講義でした。その日の英字新聞が講義の資料という英語の講義、学生が積極的に挙手する参加型の講義など、どれも学ぶことの多い講義でした。また授業が改善されない理由として、改善努力をしても教員評価の対象にならない、そのため研究論文などと同等に評価し教育業績として認めるべきという言葉に共感いたしました。

以上